

LIVING

読者
アンケート
から

〈読者アンケート〉
6月14日～21日、リビングファン、
読者モデルなどに実施。
※有効回答数35

あなたは決めていますか？

かかりつけ医

長きにわたって医療の質を確保するために、かかりつけ医を持つことの大切さが叫ばれてきましたが、その制度は私たちの中に根付いているのでしょうか？ リビング読者アンケートを通して現状をリサーチしながら、いま一度、かかりつけ医について考えます。

協力／姫路市医師会



かかりつけ医って こんなお医者さん

かかりつけ医とは、日常生活で体調を崩したときに、まず足を運ぶ身近な医療機関です。

地域の中核病院と連携し、専門的な検査や治療、手術が必要な場合は、症状に合わせて専門の医師や診療科を紹介。日常的な診察のほか、相談や指導も含めた健康管理をしてくれる、頼もしいパートナーとしての役割を担います。

Q1

あなたにはかかりつけ医がいますか？

YES(25人)

NO(10人)

Q2

(YESと答えた人へ)

かかりつけ医に決めた理由は？ ※複数回答可

近所だから (17人)

話しやすい先生だから (9人)

大病院との連携が緊密だから (5人)

診察が丁寧だから (3人)

口コミで評判だから (2人)

在宅医療を行っているから (1人)

Q3

(NOと答えた人へ)

かかりつけ医を決めていない理由は？

※複数回答可

近所に適切な医院がない (6人)

探し方が分からない (2人)

病院に行くことがほとんどない (1人)

たくさん医院があるので、どこに行けばいいのか迷う (1人)

Q4

(NOと答えた人へ)

今後はかかりつけ医を決めようと思う？

YES(7人)

NO(3人)



この人に聞きました

なぜ、かかりつけ医が求められるの？ 必要な人に上質な医療を提供するために

姫路市在宅医療・介護連携支援センター 地域医療連携室長 成定啓子さん

今、医療の現場で、必要機関それぞれの役割が分などときに必要な治療を受けられない人がいること「軽減されます」と成定さん。このように、かかりつけ医は上質な医療を実現するための重要な役割を担っています。

患者の健康状態を常に把握しているかかりつけ医ならば、普段の状態との違いに気づき素早く対応してもらえるというメリットがあります。また、かかりつけ医が専門的な検査や治療、手術が必要と判断した場合、経過や検査結果などを記入する紹介状が重要。紹介状があると、紹介先の医療機関での受診手続きがスムーズになる上に、より適切な治療を受けることができます。

今後の地域医療のために、病院と診療所の連携が求められています。

2面へ続く

読者
アンケート
から

地域医療の
窓口!

どう選ぶ? かかりつけ医

ここでは、これからの医療に不可欠な地域連携の中心的存在である、かかりつけ医の役割について、姫路市在宅医療・介護連携支援センターの皆さんに聞きました。併せて、かかりつけ医選びのポイントも紹介します。

教えて! かかりつけ医とのエピソード

- 他の医療機関で受けた検診結果を持参したら、きちんとカルテに記入し、アドバイスまでもらった。(E.Fさん)
- 私の体調不良で受診したのに、「ご主人の具合はどうですか?」と夫のことまで気にかけてくれた。(M.Uさん)
- 休日日を間違えて行ったのに診察してくれた。(A.Kさん)
- 子どもの病気で不安なときに「大丈夫!」と言葉をかけてくれた。(S.Kさん)
- 以前に手術を受けた病院名を答えたところ、私が受けたのと同様の手術全例に関する勉強会に皆勤と聞き、医師への信頼感が高まった。(N.Oさん)

かかりつけ医に望むことは?

- 診療科目だけでなく、何でもまずは相談にのってほしい。(J.Oさん)
- 話をよく聞いて、しっかり診察してほしい。(M.Uさん)
- 話しやすい雰囲気づくりと分かりやすく丁寧な説明。(Y.Kさん)
- 時間外でも診察してもらえたら、うれしい。(A.Kさん)
- 信頼関係。(E.Tさん)
- 検査結果の数値だけでは分からないので、言葉による説明をたくさんしてほしい。(N.Oさん)
- 一般的ではなく、私個人へのアドバイスをしてほしい。(N.Oさん)
- 総合的で生涯にわたっての健康管理。(C.Sさん)

病診連携のイメージ



かかりつけ医の紹介状があれば、速やかに適切な処置や治療を受けることができます。イラストのように診療所のかかりつけ医と病院の専門医が連携し、効果的な医療が効率よく行われる仕組みを「病診連携」といいます。

こんなお仕事、しています

姫路市在宅医療・ 介護連携支援センター



左から
森本 彩乃さん
成定 啓子さん
西村 まみさん
李 洋子さん

姫路市医師会が姫路市から委託を受けて運営。市民が地域で利用できる医療や介護サービスなどを知って正しく利用し、住み慣れた地域でできるだけ長く自分らしい暮らしを送ることができるよう、啓発運動を行っています。

かかりつけ医と市民が 一緒に目指す

地域包括ケアシステム

地域包括ケアシステムって?

超高齢化社会を迎え、これからますます医療や介護サービスの利用が増えることが見込まれています。そこで、高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるように、予防・住まい・生活支援まで含めたサービスを、地域で一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。

かかりつけ医の役割

介護も医療も必要な高齢者は、訪問診療や訪問看護などの在宅医療が必要不可欠です。どの地域に住んでいても必要な医療が受けられる環境を整えるために重要となるのが、かかりつけ医。地域に根付き、医療だけでなく、介護、行政とのネットワークを持つ、かかりつけ医を窓口にするれば、スムーズにサービスを受けることができそうです。

かかりつけ医選びのポイント

必要に応じて適切な医師を紹介できる

かかりつけ医には、必要なときにどの科でどういう診療を受けなければならないかを案内できる能力が必要。周りの情報に流されず、自分でそれを確かめること、対等な立場で話してくれる医師かどうか大切です。

何でも気さくに相談できる

体のことなら何でも相談できて、分かりやすい言葉で説明してくれる医師を。長い付き合いになるので、自分の価値観をしっかりと伝えられる関係を築けるかどうかも見極めるポイントです。

できるだけ自宅から近いクリニックを

体調を崩したとき、すぐに受診できるように、「近くにある」ことは大切なポイント。生活習慣病など慢性の病気は長期間の通院が必要になる場合が多いので、近くで通いやすい医療機関の方が便利です。